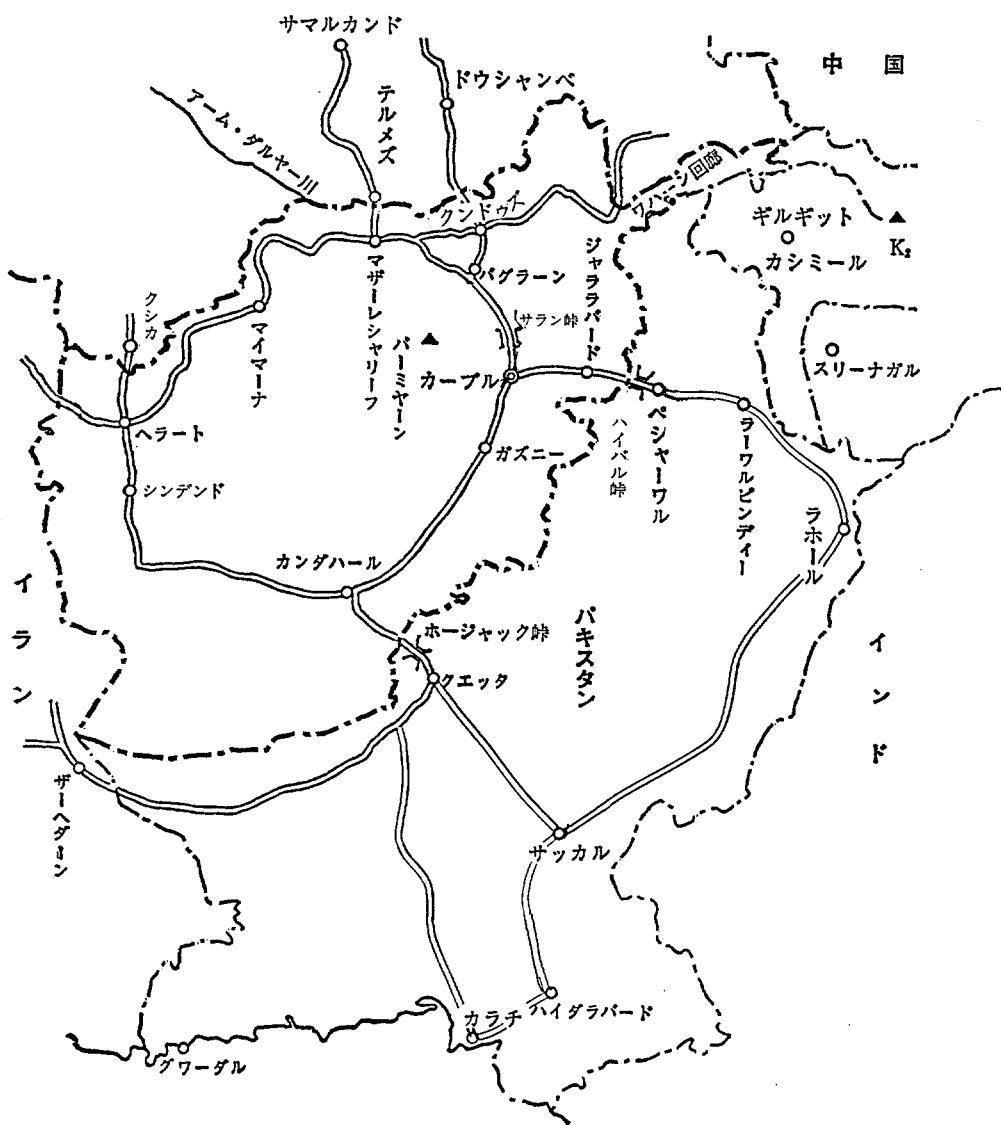


アフガニスタン

アフガニスタン・イスラム共和国 (1992年4月28日)

- 面積 64万7497km²
- 人口 1660万人
- 首都 カブル
- 官語 ダリー語, パシュトゥー語, その他
- 宗教 イスラム教
- 政体 共和制
- 元首 ブルハヌディン・ラバニー大統領
- 通貨 アフガニー (公定1米ドル=56.37アフガニー, 1992年平均)
- 会計年度 3月21日~3月20日(アフガン暦)



1992年のアフガニスタン

政権交代と内戦の激化

えん どう よし お
遠 藤 義 雄

1992年4月28日、アフガニスタン祖国党(前称、アフガニスタン人民民主党)政権が崩壊してムジャヒディン(反政府ゲリラ)政権が誕生した。78年の軍事クーデターで、ソ連の後押しを得て誕生したアフガニスタン人民民主党(共産党)政権の14年間にわたる支配が終結し、この政府に武力抵抗を続けてきたムジャヒディンの政権が発足したのである。

難民700万人、戦争犠牲者100万人、多数の戦争障害者・孤児を排出させる原因になったアフガニスタン人民民主党支配の終結はアフガニスタンの多くの人々に歓迎された。ソ連に全面的に支えられてきたアフガニスタン人民民主党政権は、ソ連が崩壊すると、たちどころに崩壊してしまった。

新しく発足したムジャヒディン政権は、イスラム政府の樹立をめざすという。アフガニスタンの人口のほとんどはイスラム教徒である。したがって、国民の一般意志に根ざした政府作りが志向されているということになる。

しかしそのムジャヒディン政権は、国民の期待に反して、権力抗争を繰り広げることになった。コンセンサスを追求しない闘争ほど危険なものはない。アフガニスタンは、いまだ経験したことのない国家分裂の危機に直面している。

国内政治

●ナジブラ政権の崩壊 ソ連軍撤兵後の約3年間に、ムジャヒディン勢力を抑え込んできたナジブラ大統領が4月16日、辞任に追い込まれた。同月28日には祖国党がムジャヒディンに権力を委譲し、同党の14年にわたるアフガニスタン支配が終結した。祖国党政権が統治能力を急速に失った原因は、前年9月の米ソ合意に基づいてロシアがアフガニスタン支援を停止したことと、国内における民族対立が表面化してきたことであった。

1992年1月1日、前年9月に米ソ両国がアフガニスタン紛争の政治解決促進をめざして合意した、対アフガニスタン支援停止条項が発効した。この日以降、ナジブラ政権はソ連を継承したロシアから、またムジャヒディンはアメリカから、武器と政治資金の一切を得ることができなくなった。しかしパキスタン、イラン、サウジアラビアがムジャヒディンを支援し続けたため、ムジャヒディンは相対的に優位に立ち、ナジブラ政権は窮地に追い込まれることになった。

ソ連が解体してまだ日が浅い1月、アフガニスタン北部のバルフ県ハイラタン地方において、ナジブラ政府に忠誠を誓ってきた民兵が反乱を起こした。ハイラタンはアフガニスタンからソ連兵が撤退するときの最後の通過点となったことからわかるように、首都カブールとソ連を結ぶ幹線道路の最終地点であると同時に、旧ソ連との交易町である。民兵はナジブラ大統領が政府軍、内務省軍、秘密警察軍と別個に組織した、民族単位の傭兵である。政府軍や内務省軍が祖国党内の派闘争に明け暮れたのに対して、民兵は政治にかかわらず中立の態度をとってきた。このため民兵は、政府軍以上の重要任務を負わされることが少なくなかった。ナジブラ大統領がとくに重宝したのは、アフガニスタン北部の主要居住民で国内少数派のウズベック人、トルコマン人、タジック人、ハザラ人を単位とした民兵である。ハイラタン地方に配備されていた民兵は、これらの民兵であった。

その民兵が、ソ連が解体するやいなや、首都カブールに向かう政府や貿易商のトラック輸送団に略奪行為を仕掛け、ナジブラ政府を悩ませることになった。民兵はナジブラ政権の命運が尽きたと判断して、自立化ないしはムジャヒディン側への鞍替えを試みたのである。民兵の略奪行為によって首都カブールでは、食糧・燃料等の不足、価格

高騰が起こった。苦慮したナジブラ大統領は、政府軍北部方面司令官をタジック人のアブドル・モーミン将軍からパストーン人のジュマ・アサック将軍に代えて鎮圧を試みたが、転属を不満としたモーミン将軍がナジブラ政権に反発、民兵と連携して政府の鎮圧軍に立ち向かったのである。しかし、かれらは政府軍の容赦のない攻撃を受けた。

これら民兵は3月に入ると、ハイラタン西方にあるバルフ県の県都マザリ・シャリフ市を掌握しようと動きだした。この動きにはムジャヒディン、それも主にアハマッド・シャー・マスード司令官(タジック人)のムジャヒディン北部監視評議会が協調した。マザリ・シャリフ市はイスラム教徒シーア派の聖地として重要であるばかりか、ソ連軍がアフガニスタンに駐留していたとき同市の軍事基地を拡張したため工業も発達し、首都カブールに次ぐ重要都市に成長していた。ハイラタンと首都を結ぶ幹線道路は、マザリ・シャリフ市を通っている。このマザリ・シャリフ市が民兵とムジャヒディンの連合勢力の手に落ちたのは、3月18日である。マザリ・シャリフ市内とその周辺の政府軍は抵抗したが、祖国党と政府軍から民兵への協調者が出て、総崩れとなった。これによって民兵勢力はほぼ無傷の状態政府軍基地を手にいれ、一挙に強大な武装集団に変貌した。

マザリ・シャリフ市を掌握した民兵たちは、ウズベック人のラシード・ドスタム将軍を最高司令官に選出して「国民イスラム運動」という連合評議会を結成、マザリ・シャリフ市に独立政権を樹立した。このときムジャヒディン北部監視評議会の指導者アハマッド・シャー・マスード司令官が国民イスラム運動の最高司令官ドスタム将軍に接近して、「イスラム聖戦評議会」という連合戦線を結成、マスード司令官がその議長となった。これは一般に、「北部連合」と呼ばれるものである。北部連合は各地の勢力に合流を呼びかけ、短時日のうちにアフガニスタンの北部全域と中央部地域を掌握する。そして4月半ば、その鋒先を首都カブールに向けるに至ったのである。

ナジブラ大統領が国連事務総長特使ペノン・セバンの説得を受け入れ、国連主導のアフガン人和平会議が開催され中立の暫定政権が発足すれば直ちに全権力を同政権に委譲するとテレビ放送を通

じて宣言したのは、マザリ・シャリフ市が陥落した3月18日であった。しかしこの宣言は、ムジャヒディン側に弱さの表れと受け止められたのももちろんのこと、ナジブラ政権内部に深刻な影響を及ぼすことになった。

先述したハイラタン地方での反乱から北部連合結成までの一連の出来事は、アフガニスタンの多数派民族パストーン人と少数派民族タジック人、ウズベック人らの間に存在している政治、宗教、民族上の対立や緊張から派生したものであった。多数派民族パストーン人は過去200数十年にわたってアフガニスタンの政権を牛耳ってきた。これに対して、少数派民族は不満を抱えてきたのである。同様の問題は、ナジブラ大統領の率いる祖国党と政府軍のなかにもあって、ナジブラ大統領の辞意宣言を機に、それが急速に表面化することになった。

このことを象徴的に示したのが、ナジブラ大統領の辞任劇である。4月15日、北部連合のムジャヒディンと民兵が首都カブールの50*地点に接近したとき、首都において軍事クーデターが発生した。このときナジブラ大統領は国外脱出を試みるのだが、反乱軍に阻止され市内の国連事務所に監禁されてしまう。クーデターの首謀者はナビ・アズミー将軍らタジック人を軸とした4人の高級軍人である。クーデターの狙いはパストーン人のナジブラ大統領が祖国党を解党して多数派民族パストーン人のみの新党を結成するか、あるいはパストーン人を主体としたムジャヒディン勢力に権力を渡すことになるのを防止するためであった。クーデターに成功したアズミー将軍らは軍事評議会を設置して実質上の権力を握り、カブール市を包囲していた北部連合のムジャヒディンと民兵の多数を首都に招き入れ市内の要所に配置したのである。この行動は明らかに多数派民族対少数派民族の民族対立感情を反映したものである。これに対抗して、同様の内応が、パストーン人の将軍および祖国党員と、パストーン人ムジャヒディンの指導者であるグルバディン・ヘクマティヤル(イスラム党代表)との間でも行なわれた。

かくして首都カブールはいつ武力衝突が起こっても不思議でない、一触即発の緊張した状況に陥った。ナジブラ政権はこうした状況において崩壊

した。

●政権移行のもたつき これよりさき、パキスタンのペシャール市で活動していたムジャヒディン組織の指導者たちは、ナジブラ政府にとって代わる新政府の枠組みを決定するための協議を1992年1月に持ったが、結論を導き出すことができなかった。しかし4月16日、ナジブラ大統領が辞任すると、首都カブールに権力の空白が生じ、首都を取り囲み始めたムジャヒディン勢力が相互に衝突する危険性がでてきた。そこで、ペシャール市のムジャヒディン指導者は、権力の受け皿となる「ムジャヒディン評議会」(臨時政府)を設置することで合意した。もっともこれは最終決定と言えるものではなかった。協議中、イスラム党ヘクマティヤル代表は自勢力の陣容を整えるためにパキスタンからアフガニスタン国内に入ってしまったのである。

ペシャール市での臨時政府樹立の協議がもたついているあいだ、アフガニスタンの国内ではジャララバード市(ナンバハール県)、ファイザバード市(バダフジャン県)、カンダハール市(カンダハール県)などの地方都市で、次々と現地のムジャヒディンとナジブラ政府軍とが連合して、地方政府を樹立し始めた。

次いで4月20日、イスラム党ヘクマティヤル代表は、カブール市の祖国党残党による現政権が、イスラム党の組織した評議会に権力を委譲しなければカブール市を攻撃するという声明を出した。この翌日、ムジャヒディン北部監視評議会のマスター司令官がペシャール市のムジャヒディン指導者に対して、一兩日以内に権力の受け皿となるムジャヒディン臨時政府を樹立することに合意するよう要請、合意が成立しない場合はアフガニスタン国内のムジャヒディン司令官が臨時政府を樹立するという通告を行なった。

事態の重大さに気づいたペシャール市のムジャヒディン指導者たちは4月24日、パキスタンのシャリフ首相の斡旋のもと、ようやく権力の受け皿となる「暫定評議会」(臨時政府)を設置することで合意に達した。それは、(1)暫定評議会はムジャヒディン組織代表10人、宗教界のウラマー代表10人、国内(現地)ムジャヒディン司令官30人に臨

時大統領セブガツラー・モジャディディー国民解放戦線代表を加えた合計51人の構成とし、その任期は2カ月、任務はカブール管理政権から権力の委譲を受け首都の治安を確保することとする、(2)次いでイスラム協会ブルハヌディン・ラバニー代表を大統領とした「指導者評議会」が暫定評議会から全権力を引き継ぎ、4カ月の任期中に暫定政権を発足させ、(3)暫定政府は18カ月以内に総選挙を実施する、というものである。一般に、これは「ペシャール合意」と呼ばれることになった。

●ムジャヒディン政権の発足 モジャディディー暫定評議会臨時大統領は4月28日にアフガニスタンの首都カブールに入った。この時にはすでに首都カブールを包囲していたムジャヒディン各組織と民兵組織が首都に入城し戦闘が開始されていたが、前政権の管理政府からモジャディディー臨時大統領への権力委譲儀式が挙行された。これによりアフガニスタン史上初めて、イスラム主義を標榜する政治勢力が権力を掌握することになった。

翌日にはパキスタンのシャリフ首相がカブール市を訪問し新政権を承認するとともに、1000万米ドルの小切手をモジャディディー臨時大統領に手交した。ムジャヒディン政権の成立を待って、堰を切ったようにアフガニスタン難民のアフガニスタン帰還がはじまった。

新政府に対する国民の期待は大きかった。しかしこの期待は、ムジャヒディンが首都で戦闘を拡大したことと、モジャディディー暫定評議会政権が無力な政権であったことで、急速に萎えてしまった。モジャディディー臨時大統領は、ムジャヒディン司令官を主体とした暫定評議会を開催したが、暫定評議会はどのような政策を打ち出すべきか、またどのような政策決定機構を作るべきかといった新政府の浮沈にかかわる問題について、ほとんど合意を形成することがなかったのである。この間、他の有力指導者と違って広い支持基盤を持っていなかったモジャディディー臨時大統領は執務の多くの時間を、部族長、宗教学者、民兵指導者、シーア派勢力の支持を得る交渉に割き、臨時大統領の任期延長に努力を傾けた。モジャディディー臨時大統領は着任早々、部族の長老、地方のムジャヒディン司令官などから、大統領の任期

をベジャワール合意の規定する2カ月から、できれば5年、少なくとも2年に延長するよう要請されたと言明して、ベジャワール合意を交わした他のムジャヒディン指導者から壘蹙を買い、死に体の大統領になってしまったのである。

6月29日、イスラム協会のブルハスディン・ラバニー代表がモジャディディー暫定評議会臨時大統領から権力委譲を受けて、「指導者評議会」政府の大統領に就任した。つまり、ベジャワール合意が規定した第2段階の政権の始まりである。有カムジャヒディン指導者の集団責任制による指導者評議会政権の任期は4カ月、憲法の制定や総選挙を準備する暫定政府を発足させることが最大の課題である。

しかしラバニー大統領が差し迫って取り組まなければならなかった課題は、新政府発足いらい政府攻撃を行なってきた、イスラム党ヘクマティヤル代表を指導者評議会に引き戻すことであった。これに関してラバニー大統領はイスラム党ヘクマティヤル代表に譲歩して、ヘクマティヤル代表の指名したアブダス・フェリドを暫定政府の首相として迎え入れた。しかしヘクマティヤル代表は首都攻撃を続けたため、ラバニー大統領のイスラム党抱き込みの努力は水泡に帰した。

ラバニー大統領の任期は4カ月で、10月に切れることになっていた。その前半はヘクマティヤル勢力との抗争に費やされたが、後半は本来の課題である憲法制定と議会開催を協議する「全国代表者会議」の開催準備に当てられた。会議開催準備中にラバニー大統領の任期は終了してしまうという問題が生じたが、政権の最高意思決定機関である指導者評議会は、全国代表者会議を開催させることを条件に、ラバニー大統領の任期を45日間延長した。全国代表者会議は12月末に開催され、ラバニー大統領の再選、臨時議会の発足、憲法起草委員会の発足等を決議して閉幕した。ラバニー大統領の任期延長を不当と主張してきたヘクマティヤル勢力などは、全国代表者会議をボイコットした。

●イスラム党ヘクマティヤル派の挑戦 首都カブールはムジャヒディン政権が発足して以来、政治的対立、派閥対立、宗派・イデオロギーの違い、

あるいは外国の干渉などを原因とした大小さまざまな武力抗争に見舞われてきた。アフガニスタンは多くの民族、多くの民族言語、複数の宗派、部族主義が混在しているきわめて複雑な社会である。こうした社会における武力抗争は、一步間違ふと止めどのない対立状態に陥ることになる。首都カブールの状態は、すでにこうした域に達した感すら抱かせるものがある。

武力抗争のなかで際だっているのは、イスラム党ヘクマティヤル勢力の新政府攻撃である。かれらはムジャヒディンのカブール入城時の競争劇でアハマッド・シャー・マスード司令官のムジャヒディン勢力とラシード・ドスタム将軍のウズベック民兵の連合勢力によって首都の中心部からはじき出されて以来、カブール市南方20^{km}離れたチョルサヤブ地区に大がかりな城砦を築いて、間断なく首都にロケット弾の雨を降らせてきた。また首都への食糧・燃料の搬入妨害をも行なってきた。

イスラム党は、首都攻撃のたびになんらかの理由を挙げてその行動を正当化している。政治状況の変化によってニュアンスに違いがあるが、それらはだいたい、(1)ウズベック人などの旧民兵勢力の首都追放、(2)政府・軍機関からの旧共産党分子の掃、(3)総選挙の実施、の3点に集約できる。カブールを掌握するマスード司令官やラバニー代表の属するイスラム協会が、これら3点の問題に有効に対処し得ないことをもって、首都を砲撃し、首都民の生活を脅かし、その動揺を招いて、権力奪取への展望を開こうとしているのである。

しかしイスラム党ヘクマティヤル勢力は、いまだその目標を達成していない。イスラム党のイスラム政府樹立の主張は、その強烈なドグマ性という点で、同じくイスラム政府樹立を唱道するイスラム協会などとも異なる。イスラム党はこの意味でイスラム原理主義者と評され、モダニストの多い首都民はもちろんのこと、穏健なイスラム社会を望んでいる地方民からも、十分な支持を得られないでいる。また1992年4月にムジャヒディンがカブールの権力を奪取したとき、パストーン人のイスラム党ヘクマティヤル代表はパストーン民族主義を鼓舞したことがあった。しかしイスラム党の支持基盤はパストーン人の中でも東部のギルザイであったため、その鼓吹するパストーン民族主

義は王党派の多いドラニー(南部のバスターン人)には受け入れられなかった。以上二つの理由からイスラム党へクマティヤル勢力の前途は厳しいものになっている。

対外関係

●期待された国連和平工作 1992年に入ると、ガリ国連事務総長の和平案を軸にしたアフガニスタン和平に対する期待が高まった。国連の和平工作は時間との競争であった。しかし、ムジャヒディン側に政治解決への熱意がなく、成果をあげずに終わってしまったのである。

1月1日、前年9月に米ソ両国がアフガニスタン紛争の政治解決促進をめざして合意した対アフガニスタン支援停止条項が発効すると、国連事務総長特使ベノン・セパンが関係国への往復外交を精力的に展開しはじめた。

1月27日、ガリ新国連事務総長はアフガニスタン和平に関する談話を発表した。このなかでガリ事務総長は、臨時政府樹立への合意形成をめざすアフガン代表和平会議を開催する時期が到来したとの見解を述べるとともに、アフガニスタン担当特使ベノン・セパンに対して、関係国への訪問外交を積極的に推進して和平会議開催の実現を図るよう指示したことを明らかにした。セパン国連事務総長特使の外交カバンのなかにあった和平案は、まず部族指導者、王党派、ムジャヒディン、ナジブラ政権の代表約150~500人がヨーロッパに4月中旬頃に集まり、権力移行期間と権力移行方法についての合意をはかり、次いで臨時大統領の選出と中立的な人士による臨時政府を発足させる会議を秋までに開催するというものであった。この和平案は一般に、「2段階和平案」と呼ばれている。

アメリカとロシアはこの案に早くに賛成した。また、アフガニスタンのナジブラ政権も1991年末に同意していた。態度不鮮明だったのはムジャヒディンを支援しているパキスタン、イラン、サウジアラビアであった。ところが国連事務総長がアフガン和平促進談話を発表した1月27日、パキスタンが国連事務総長の和平案の支持と対ムジャヒディン武器援助の停止を明確に表明した。パキスタンは、旧ソ連から新たに独立した中央アジア諸

国への進出でイランやトルコに遅れをとることを嫌い、同地域への通路となるアフガニスタンの安定化を望むようになったのである。また、パキスタンの変化に対応してイランやサウジアラビアも国連事務総長の和平案を支持した。これで、国連仲介のアフガン人和平会議を拒否する関係国はなくなった。

残るはムジャヒディンのみであった。彼らは和平会議参加について賛否両論に分かれた。反対派は王党派やナジブラ政権の代表の和平会議参加を拒否し続けた。

こうした状況下の3月18日、ナジブラ大統領が、国連事務総長の推進している中立的な臨時政府が発足すれば同政府に全権力を委譲すると宣言した。これは辞任公約宣言であり、和平会議の実現性を格段に高めたのは言うまでもない。各国はこれを歓迎したが、前述したように、ムジャヒディンはナジブラ政権の弱さの現れと受け止め、新政府樹立に際して自勢力の交渉力を大きくするため都市の占拠や支配地の拡張に向けた活動を活発化させたのである。

事態の急転に対して国連事務総長は、従来の合意形成会議と臨時政府発足会議の2段階和平案を一本化し、一気に臨時政府を樹立することにした。しかしそれも間に合わないと判断した国連事務総長は、権力の受け皿となる中立の暫定評議会を設置してまず平和裡な権力移行を実現し、そのちアフガン代表会議を開催して正式の臨時政府を発足させ暫定評議会から臨時政府に権力と権限の委譲を行なわせるという、緊急避難措置を講じたのであった。この措置には各国が協力した。だがナジブラ政権内部の分裂の深まりとムジャヒディンの権力抗争の高まりによって、この措置はぎりぎりのところで放棄されてしまった。結局、国連和平案は回避しようとした事態を回避することができなくなったのである。結果はすでに見たように、アフガニスタン政治のカオス化である。

●周辺国の動き パキスタンはムジャヒディン政権の承認第一号国となった。パキスタンが従来のもムジャヒディン支援政策を変更して国連和平案を支持することになったのは、ソ連が解体して中央アジア地域が独立したこと、これら新興独立

国と外交関係ならびに経済関係の樹立を急ぐ必要性を感じたためであった。しかしこの変化は、ナジブラ政権崩壊を確実に見通せるようになると国連主導の政治解決より従来の軍事解決に関心を向けるというように、よく言えば柔軟性、悪く言えば日和見主義に立つ変化であった。こうした立場はムジャヒディン政権を承認したのちにも見ることができ、パキスタンはカブール政権と公式のコンタクトをとる一方で、ムジャヒディン勢力との直接コンタクトを取り続けている。そのなかでも目立つのはイスラム党ヘクマティヤル派との関係であろう。ヘクマティヤル勢力が政府軍との武力抗争で窮地に追い込まれたとき、パキスタンは停戦合意の斡旋を行なうのを常としてきた。もう一つは民兵勢力のラシード・ドスタム将軍との関係であろう。パキスタンはドスタム将軍のメッカ巡礼の手引を行なった。またパキスタンはドスタム将軍の支配しているマザリ・ジャリフ市に領事館を開設した。

イランのアフガニスタン外交もまた、柔軟性と多様性に富んだものである。この傾向はソ連軍が撤兵してから顕著になり、1992年に入るとさらに柔軟性を増し、かつ多様性をも持つようになった。従来、アフガニスタンのシーア派に限定されていたイランの支援が、アフガニスタンの少数派民族全般に拡大された。またイランはムジャヒディンを支援する一方で、文化的側面ではナジブラ政権との関係改善をはかったほか、人道的援助として食糧・医薬品等の援助を再三にわたって行なった。ムジャヒディン政権が発足すると新政権を承認し、ラバニー大統領のイラン訪問に際して5000万ドルの食糧購入等の資金援助を行なった。イランは依然として、パキスタンおよびサウジアラビアをにらんだアフガニスタン外交を展開している。

サウジアラビアは、パキスタンとほぼ同様の対アフガニスタン外交を展開してきた。ただしサウジアラビアの場合は、イスラム党ヘクマティヤル派との関係を修復した点が注目される。湾岸戦争に際して、ヘクマティヤル派がアメリカ軍の介入

を非難したため、サウジアラビアはヘクマティヤル派との関係を疎遠にしたが、それがいま修正されたのである。サウジアラビアの対アフガニスタン外交の基本は依然として、イランの影響拡大を抑えることに置かれている。

経済・社会

アフガニスタンの人々は、さまざまな経済苦に直面している。とくに首都カブールの住民が、ムジャヒディン勢力の権力闘争の被害を蒙り、酷い経済苦に悩まされた。アフガニスタンの幹線道路のいたるところで、山賊行為、恣意的な通行税徴収、通行封鎖等が行なわれている。アフガニスタン経済は中央管理のシステムが崩れてしまい、地方政府の隣国と密着した経済システムと麻薬や武器の密輸経済に支えられることになった。

1月、ソ連の崩壊とアフガニスタン北部における民兵等の反乱によって、首都カブールは食糧、燃料の不足、価格高騰に見舞われた。とくに深刻だったのはアフガニスタンの中央部ハザラジャード地方であった。イランの赤月社が、180トンの食糧・衣料の空輸を行なった。また8月のイスラム党ヘクマティヤル勢力による首都大攻撃は、多数の商人と役人の逃走をうながし、中央政府の行政と経済の基盤に壊滅的な打撃を与えた。

首都の混乱の深まりとともに、地方政府と近隣諸国との経済・文化交流が増大してきた。アフガニスタン東部のジャララバード政府はパキスタンのペシャール市と直通電話回線でつながるほどの経済社会関係を築いてしまっている。北部のマザリ・ジャリフ政府は、ウズベキスタンなど中央アジアとの経済関係を深めてきた。西部のヘラートと中央部のハザラジャードの政府は、イランのホーラサン地方との経済、文化関係を強めてきた。経済にとり唯一明るい材料は、地方での絨毯生産が健在であり、生産量に伸びがあったとされることである。

(拓殖大学助教授)

重要日誌 アフガニスタン 1992年

1月2日 ▶パキスタン外務次官アクラム・ザキーが、パ政府は武器供与停止を含めた全和プロセスに協調していく意向を英国放送 BBC インタビューの中で表明。

5日 ▶パキスタン紙 *The Muslim* が、ナジブラ大統領はムジャヒディン全勢力がザーヘル元国王の大統領就任を受け入れれば大統領職を辞任する意向をムジャヒディン側にパキスタン政府高官を通じて申し入れた、と報道。

7日 ▶イスラム党ヘクマティヤル代表は、関係国のザーヘル元国王を首班とした暫定政府樹立計画はアフガニスタンに「レバノン化」に導くと非難。

24日 ▶イラン外務省政務次官アラエディン・ドルドジュルディがアフガン代表団と会見し、イラン政府はアフガニスタン政策で新機軸を打ち出していくと表明。

27日 ▶ガリ国連事務総長が「アフガン人和平会議」を開催する時期が到来、と表明(「参考資料」2を参照)。

▶パキスタン外務担当相モハマッド・カンジュが、パ政府は国連事務総長の提唱している暫定政府樹立に向けた「アフガン人和平会議」開催を支持すると表明。

28日 ▶アフガニスタン北部のバルフ州で、政府軍の将校と民兵司令官らがナジブラ大統領の将校人事に反発して抵抗活動を展開。

2月12日 ▶カブール放送は、イスラム党ヘクマティヤル派とイスラム党ハリス派の武力抗争が起こり、13人が死亡したと報道。

22日 ▶アフガニスタンのハティフ副大統領がトルクメニスタンを訪問し、外交関係を樹立。

26日 ▶イスラム協会ラバニー代表が、先月末にアフガニスタン北部で反乱を起こした民兵勢力とイスラム協会の北部監視評議会(アハマッド・シャー・マスード代表)が連合して、「聖戦評議会」を創設したと表明。

3月2日 ▶英国放送 BBC は、ムジャヒディン3組織の代表団がローマ在住のザーヘル元国王と会見し、政府編成問題を協議したと報道。

15日 ▶ムジャヒディンの北部監視評議会勢力(代表マスード司令官)がアフガニスタン北部のサマンガン地方一帯を掌握し、マザリ・シャリフ市を包囲。

18日 ▶ナジブラ大統領がラジオ放送を通じて、国連和平案に沿った暫定政府が成立すれば直ちに大統領を辞任すると宣言(「参考資料」3を参照)。

24日 ▶カブール南郊の国防本部(旧バラ・ヒサル要塞)が火災に合う。原因は漏電とされるが、ナビー・アズミー将軍(タジック人)らのクーデター事件。

30日 ▶イランのベラヤティ外相、パキスタンのカンジュ外務担当相、セバン国連特使がテヘランで会談。イ・

パ両相は国連和平案の効果性を願うと発言。

4月2日 ▶セバン国連特使が、国連和平のプロセスを2段階方式から1段階方式に切り替え、4月中旬に執行力を持った「中立評議会」を発足させると表明。

3日 ▶パキスタンのシャリフ首相がカブールの食糧不足を憂慮し、小麦1万tの緊急輸送を指示。

4日 ▶ベジャワールのムジャヒディン7組織が「中立評議会推薦人名簿」をセバン国連特使に手交。

7日 ▶マザリ・シャリフで「国民イスラム運動」代表の民兵将軍ドスタムが初めて記者会見に応じ、国連和平案を支持するとともに、ナジブラ大統領の辞任を要求。

9日 ▶サウジアラビアのトルキョー皇太子がパキスタンを訪問し、ムジャヒディン指導者に国連和平案を承諾するよう働きかける。

14日 ▶ムジャヒディンの北部監視評議会(マスード司令官)勢力がカブール北方60*地点のチャリカル市を占拠するとともに、バグラム空軍基地を包囲。

15日 ▶政府軍のナビー・アズミー将軍らが「軍事評議会」を設置。

16日 ▶ナジブラ大統領が辞任。同大統領はその直後亡命を試みたが軍事評議会軍に阻止され、カブール市内の国連事務所に身を隠す。

18日 ▶マスード司令官は、ベジャワールのムジャヒディン指導者たちが暫定政府を樹立すれば受け入れると表明。一方、イスラム党ヘクマティヤル代表は、同党の選出した評議会への権力委譲がない場合、カブールを攻撃すると表明。

19日 ▶ベジャワールでパキスタンのシャリフ首相とムジャヒディン指導者が協議を重ね、「ムジャヒディン評議会」を設置して権力の受け皿にすることで合意。

24日 ▶カブールを取り巻いていたムジャヒディン6組織が市内に入城。各々、官庁占拠や歩哨設営を行なう。

▶ベジャワールで、ムジャヒディン6組織が暫定政府の陣容と本格的政権樹立に向けての計画を織り込んだ「ベジャワール合意」を公表。

25日 ▶大統領府の支配権をめぐるイスラム党ヘクマティヤル勢力とイスラム協会が衝突。

28日 ▶ムジャヒディン暫定政府のモジャディディー大統領がカブールに入城。前政権から正式の権力委譲を受け「イスラム政権」の発足を宣言。

29日 ▶パキスタンのシャリフ首相がカブールを訪問、イスラム政権の承認と約1000万\$援助を確約。

5月4日 ▶イスラム党ヘクマティヤル勢力が、カブール南郊から市中にロケット弾攻撃を開始。

13日 ▶ロシアのコーズレフ外相がカブールを訪問、外交関係改善に関する共同宣言を発表。

25日 ▶イスラム党ヘクマティヤル代表とマスード国防相が、停戦について合意(「参考資料」5を参照)。

30日 ▶カブール南郊でイスラム党ヘクマティヤル勢力とドスタム民兵勢力の武力衝突が再発。

6月2日 ▶カブールの西部地域において、シーア派のイスラム団結党とスンニー派のイスラム統一体サヤーフ勢力が衝突、ドスタム民兵勢力が仲裁に入る。

14日 ▶米国代表団が新政権と外交関係樹立を協議するため、カブールを訪問。

16日 ▶テヘラン放送は、シーア派のイスラム団結党がスンニー派で独占されてきた「ムジャヒディン評議会」と「指導者評議会」に参加することになったと報道。

28日 ▶モジャディディー大統領がベジャワール合意に沿い、イスラム協会ラバニー代表に大統領職を委譲。ラバニー政権の任期は6カ月。

7月1日 ▶カブール市内においてドスタム將軍の率いる北部連合「国民イスラム運動」とイスラム統一体サヤーフ勢力が武力衝突。

4日 ▶イスラム党ヘクマティヤル勢力がカブールにロケット弾を打ち込み、ドスタム勢力が報復。

6日 ▶イスラム党ヘクマティヤル派のアブドル・サブル・ファリッドがベジャワールからカブールに入り、ラバニー政権の首相に就任。

14日 ▶イスラム党ヘクマティヤル勢力とマスード国防相管理下の北部監視評議会勢力が、武力衝突を再開。

19日 ▶マスード勢力の北部監視評議会とシーア派イスラム団結党が武力衝突し、死者60人以上を出す。

21日 ▶シーア派イスラム団結党とスンニー派イスラム統一体サヤーフ勢力とが、停戦に合意。

8月2日 ▶イスラム党ハレス派のユニス・ハレス代表が、ラバニー大統領のシーア派イスラム団結党の指導者評議会取り込み等を非難して、指導者評議会から脱退。

4日 ▶イスラム党ヘクマティヤル勢力が、大々的なカブール攻撃を開始。

19日 ▶政府軍がヘクマティヤル勢力鎮圧に向けて、反撃に出る。

29日 ▶ラバニー政府とイスラム党ヘクマティヤル勢力が12項目の停戦合意を交わす(「参考資料」6を参照)。

▶パキスタン政府は同国領内107カ所のアフガン難民キャンプの閉鎖と、新規難民の流入禁止を決定。

9月3日 ▶ヒンズークッシュ山中の洪水で約500人が死亡、ラバニー大統領は印バ訪問を延期。

18日 ▶ラバニー大統領、イスラム党ヘクマティヤル代表、イスラム統一体サヤーフ代表、イスラム革命運動ナ

ビー・モハマディー代表の4人が、ラバニー大統領の任期が終了する10月28日前に全国評議会(シュエラ)を開催して新大統領を選出することで合意。

22日 ▶カブール放送が、シーア派のイスラム団結党ファゼル代表はイスラム政府との全ての対立点が解消され同党はいまや政府の一部だと表明したと報道。

29日 ▶ラバニー大統領がパキスタン訪問からイランに入り、経済協力など5000億^ルの借款文書に調印。

10月3日 ▶指導者評議会は、全国評議会(制憲議会)の代表数を地方人口比で決めることと、国連とイスラム会議機構をオブザーバーとして招待することを決議。

▶ヘラート地方でイスラム党ヘクマティヤル勢力と政府連合体のイスマエル・ハーン勢力が、シンダンド空軍基地の支配権をめぐる武力衝突。

12日 ▶国防省がシンダンド基地を掌握したと表明。

13日 ▶ラバニー大統領がウズベキスタンに出発。

19日 ▶指導者評議会が権力委譲に関する声明を発表(「参考資料」8を参照)。

28日 ▶指導者評議会がラバニー大統領の任期を45日間延長することを決議。

30日 ▶アフガニスタン東部のカピサ地方で首都への食糧・燃料の流入を妨害してきたヘクマティヤル勢力に対して、政府軍や民兵ドスタム勢力らが爆撃する。

11月8日 ▶前民兵のドスタム將軍が、ラバニー政権に自勢力の指導者評議会参加承認を要求。

▶イスラム党ヘクマティヤル代表が、外国援助物資の共同管理を条件に物資の流通妨害を停止すると表明。

11日 ▶シーア派のイスラム団結党が、全国評議会代表1200人の中にシーア代表260人の枠の設定を要求。

29日 ▶アフガニスタンがトルコ、イラン、パキスタンの3国が創設した経済協力機構(ECO)に加盟。

30日 ▶カブール西部地域でスンニー派のイスラム統一体とシーア派のイスラム団結党が武力衝突。

12月6日 ▶マスード国防相管理下の北部監視評議会勢力とシーア派のイスラム団結党がカブール市内で交戦。

8日 ▶北部監視評議会勢力とドスタム勢力が厚生省近辺で武力衝突。しかし両勢力は9日夕刻、停戦に合意。

13日 ▶ムジャヒディン7組織が政府の全国評議会代表選出に不満を表明、全国評議会の開催延期を要求。

▶ラバニー大統領は、全国評議会が開催され新大統領の決定を見るまで大統領職にとどまると表明。

15日 ▶イスラム党ヘクマティヤル代表がラバニー大統領の辞職拒否を非難、カブール攻撃を再開。

29日 ▶全国評議会が内務省において開催。

30日 ▶全国評議会が、ラバニー現大統領を大統領に再任。任期は2年間。

参考資料 アフガニスタン 1992年

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ㉒ 主要閣僚名簿 ㉓ ガリ国連事務総長のアフガン談話 ㉔ ナジブラ大統領の政権移管宣言 ㉕ 指導者評議会の第1回会議決議事項 | <ul style="list-style-type: none"> ㉖ マスード・ヘクマティヤルの停戦合意 ㉗ ラバニー政府・イスラム党の停戦合意 ㉘ ラバニー大統領の就任演説 ㉙ 権力移譲に関するラバニー政府の声明 |
|---|---|

㉒ 主要閣僚名簿

〔1月1日～4月16日〕

大統領	Dr. Najibullah
副大統領	Abdul Rahim Hatef
同	Abdul Hamid Mohtab
同	Dr. Abdul Wahed Sorabi
同	General Mohammad Rafi
首相	Fazal Haq Khaliqyar
国防相	General Muhammad Aslam Watanjar
外相	Abdul Wakil
国家安全相	General Ghulam Faruq Ya'qubi

〔4月28日～6月28日〕

大統領	Sibghatullah Mujaadidi
首相	Abdul Sabur Farid
国防相	Ahmad Shah Masood
国家安全相	General Yahya Nauroz
外相	Syed Sulaiman Gailani
内相	Ahmad Shah
蔵相	Hameidullah Rahimi
法相	Jalaluddin Haqqani

〔6月28日～12月31日〕

大統領	Burhanuddin Rabbani
副大統領	Mowlawi Mir Hamza
首相	Abdul Sabur Farid
国防相	General Ahmad Shah Masood
外相	Syed Sulaiman Gailani
内相	Ahmad Shah
商業相	Dr. Abdul Wahed Sorabi
厚相	Yaqub Barakzai
地方再建相	Eshaq Gowhari
農相	Syed Abdul Hadi

㉓ ガリ国連事務総長のアフガン談話

(1月27日, 国連)

国連事務総長就任にあたり、私は1991年12月5日の国連総会決議第23/46号案を基にした政治解決を真剣に推進し、長い紛争に終結をもたらすため関与をしていくことをアフガニスタンの人々に保障したいと思います。

アフガニスタンにおける人的な苦痛の重みは、私の胸に訴えるものがあります。この国では、多くが破壊され、

100万人以上が死亡し、200万人が身体に支障をきたし、数え切れないほどの孤児と寡婦が出現し、500万人以上が国外難民となり、200万人以上が国内難民となっております。この人的な悲劇はすでに10年以上に及んでおり、終わらせる必要があります。

さりながらここ数カ月、いくつかの積極的な展開が起こっております。前年5月21日に国連総会が決議した「5項目和平案」を基盤とした国連のアフガニスタン問題に関する政治解決努力に対する世界的な支持は増えており、私に勇気を与えています。同じく、私はジュネーブ合意の保障国が本年の1月1日からアフガン人の全ての勢力に武器供与停止すると決定しましたことを、歓迎しております。この機を捉え、私は対立している国々もまた、同じような決定を下すよう訴えます。武器供与停止と同様に、武器購入資金供与も早期に停止されるべきであります。

私は、包括的な政治解決に向けての計算された諸措置を取る時期がやってきたとの見解をもつものであります。これに関連して、アフガニスタンの政治勢力、宗教界、部族指導者、反政府勢力、レジスタンス司令官、著名人などさまざまな代表者たちは、自由で公正な選挙を通じた国民政府樹立に向けての移行期間と過渡的機構を設定するために、アフガン人会議を開催しなければならないと語っております。関係国もまた、そのような会議の開催を支持すると表明しております。

私には、できる限り多くの社会層の人士を取り込んだアフガン人会議をアフガニスタンの外部で開催する用意ができております。私はすでに私の特使ベノン・セパンに対して、会議の実現性を確実にするための往復外交をさらに展開するよう要請しております。

(出所) アフガニスタン・レジスタンス評議会, *Afghan Jihad* (季刊誌), イスラマバード, 第5巻2号, 1992年, 14~15ページ。

㉔ ナジブラ大統領の政権移管宣言

(3月18日, カブール)

私はただいま、国連事務総長の対アフガニスタン・パキスタン特使ベノン・セパン閣下と、国連が努力しているアフガニスタン問題の政治解決促進に関する真面目な協議を終えたばかりであります。私は国連事務総長特使

閣下に、和平努力とりわけ閣下が提案したアフガン人の集まりをアフガニスタン政府が全面的に支持をすることを伝えました。

加えて、私はもう一度ベノン・セバン氏に対して、ガリ国連事務総長の提案と私自身がアフガニスタンの人々に約束してきたものを基にして、国連和平プロセスの一部として提案されている国連主催のアフガン人会議に出席すると主張しないことを納得させました。

私は、アフガン人の集まりの合意と国連和平プロセスの結果としてカブールに過渡的政権が樹立されたとき、全ての執行権と権威を移行期間の第一日目に過渡的政府に移管することに同意します。国連事務総長がすでに述べられているごとく、過渡的政府は最大限の権力と権威を持つだけでなく、同政府は人々の団結と安全と生命はじめアフガニスタンの領土の保全を保障することになります。同政府はまた人権の尊重と選挙で選ばれた政府を創出するため自由で公正な選挙を組織することを保障するであります。私は、国連事務総長が第46回国連総会の報告のなかで、いましがた述べたような義務を過渡的政府に効果的に遂行させるための適宜な国際的保障が提供されるべきだと述べたことに、全面的に同意します。これゆえに、私は個人や派閥の利益を越えてアフガニスタンの人々の利益を尊重する用意ができてきていることを、もう一度宣言します。私は他の人々も同様の方針に立つことを心底から願っております。

(出所) *FBIS=NES*, 1992年3月19日, 29ページ。

㉔ 指導者評議会の第1回会議決議事項

(5月12日, カブール)

- ・前体制の内閣の解散
- ・イスラム法に反する全ての法律と規約の破棄
- ・国民議会と上院の解散
- ・国家安全省の解体
- ・売国奴と違法者ならびに公的安全を守るための特別法廷の設置
- ・祖国党(旧称、アフガニスタン人民民主党)の解散
- ・4月28日をイスラムのアフガニスタン国家の「勝利の日」とする
- ・5月4日を指導者評議会「入城の日」とする
- ・モジャディディー暫定政府大統領の宣言した一般恩赦の承認
- ・外国援助の中央政府管理

(出所) 前掲 *Afghan Jihad*, 第5巻3号, 1992年, 24~25ページ。

㉕ マスードとヘクマティヤルの停戦合意

(5月25日, カブール)

全能なるアッラーの神の手助けによって、われわれは以下の項目について合意した。

1. 恒久的に武力衝突を回避すること、ならびにカブールの北部地域から武装特派部隊を撤退させることを保障する。ただし指導者評議会および和解委員会が、恒久紛争停止ならびに武装特派部隊の撤退方法、時期、必要な保障について最終決定を下す。

2. 選挙の対象、実施方法、実施日の決定は合同委員会に委ね、同委員会に今週末までに最終決定を宣言する義務を負わす。

3. 双方は(モジャディディー大統領の)暫定期間が終了(6月28日)するまでに選挙を実施するよう、真実に努力する。選挙の延期あるいは遅滞は、予期しない出来事あるいは好ましくない状態が発生して双方が同意した場合に起こり得る。

4. 暫定政府は先の合意(ペンチャーワル合意)に準じて、その義務を遂行すべきである。

5. 先の合意にしたがえば、権力移行期間は2カ月間のみで、延長はできない。

6. 全ムジャヒディン勢力によって行なわれているカブールの安全保障は、内務相の枠組みのなかで確保されるべきものである。

7. 全問題にかかわる双方の討議は、将来にわたって継続される。

8. 暫定期間終了後の最短時間に選挙を実施するとしても、わが国は権力空白状態にはならない。

(出所) 前掲 *Afghan Jihad*, 第5巻3号, 1992年, 17ページ。

㉖ ラバニー政府・イスラム党の停戦合意

(8月29日, カブール)

イスラム党ヘクマティヤル勢力とラバニー政府の武力衝突を終結させるために五つのムジャヒディン勢力の代表120人が和平委員会を結成して調停工作を重ね、以下の12項目の停戦合意を引き出した。

1. 恒久的な停戦を遵守する。今日の対立の原因を取り除き、問題点は平和的な話し合いによって解決する。停戦は8月29日正午より実行する。

2. 先(5月25日)の指導者評議会の決定に基づいて、前共産党体制の民兵勢力はカブールと同市内の戦略地点から撤退する。撤退は1週間内に開始し、可能な限り早期に終了する。

3. 指導者評議会の決定に基づいて、共産党官吏を軍と政府役所から一掃する。

4. 指導者評議会の決定に基づいて、各地方政府は国防省のイスラム軍創設を手助けするために、国防省の聖戦評議会に代表1名を差し出す。

5. 内務省は、カブールとその周辺地区の安全保障向上対策準備に取り組むためのカブール司令官評議会を召集する。

6. イスラム党勢力は民兵勢力が撤退を開始すると同時に、カブール周辺の前線基地から撤退する。

7. イスラム党に加わっている共産主義者と民兵勢力は解除され、出身地方に送り返されるべきである。

8. ナンガハール、バルワン、ロガル、カブール、ワルダックから徴募された平和維持軍が、民兵とイスラム党が撤退した地域に展開される。

9. 国防省と内務省に軍団が編成されたのちは、平和維持軍を撤退させ、省軍が平和維持軍の任務につく。

10. どちらが先に紛争を起こしたのかの責任を明確にするウラマーならびに司令官の委員会を設置する。

11. 全ての勢力と司令官は、イスラム政府を支持すべきである。

12. どちらの側がこの合意を破っても、その結果責任を負うものとする。

(出所) イスラム協会、*AFGHANews* (各週紙)、カブール、第8巻21~22号、1992年、2ページ。

㊦ ラバニー大統領の就任演説(要旨)

(6月30日、カブール)

……われわれはイスラムのシャリア法の枠内で、報道と文化の領域における言論の自由を尊重します。われわれは道徳と道徳的伝統上の発言および国民の関心を尊重します。これは社会における思考の成熟に、必要有益なものと考えております。イスラム政府は法の枠内で全ての市民と政治社会組織に、健全な機会を提供します。政府はその歴史的栄光、文化・文学の保護に努めます。

ラジオ・テレビ放送局はシャリア法の枠内において、情報を集めたり報道することになります。……ラジオ・テレビ番組は社会の訓練や組織化の手段となるべきものであります。またそれは、われわれの豊かな文化や永遠の価値への橋渡しとなるべきものであります。

社会福祉関係の領域では、イスラム政府は人々の自然権利である仕事を確保する基盤を築いていきます。政府は雇用者と被雇用者、地主と小作等の関係を良好にする法律を作っていきます。双方とも生産から公正に利益を受益すべきです。イスラム政府は、労働条件や労働者の賃金を決めたり労働者に必要な健康・社会サービスなどを提供する責務を負っています。……

保護(や救済)の問題は、イスラム政府において注意を

払う価値のある重要課題となっております。……イスラム政府は、母親、子供、青年に必要な手助けをする責務を負っています。われわれは可能な範囲で、福祉と社会サービスの提供をするよう試みます。身障者・孤児省はイスラム政府行政機構のなかで主要な機関でありまして、殉教者家族や貧者のサービスに当たっております。帰還者、家屋消失者、土地を追われた人々に対する家の準備は、イスラム政府の長期短期の政策となっております。政策の優先順位が殉教者の家族や重度の身障者たちに与えられるべきことは、忘れられてはなりません。

外交の領域においては、イスラム政府は……国益の追求と保護、独立と主権の確立、国家統合の防衛、内外における平和と安全保障の確保、アフガニスタンの世界における地位向上の推進、平等互惠、国際協調の促進といった考えを基盤にします。

イスラム政府は、国連憲章、世界人権宣言はじめイスラムの考えに反しない国際法の原則と規準を評価、尊重します。政府は躍動的で前向きな中立政策を続けていきます。また国益に沿って国際・世界問題に取り組むこととなります。政府は非同盟運動とイスラム会議機構のメンバーに留まり、その地位を強化していきます。

政府は、非干渉、平等、主権の相互尊重、武力の不行使などを基盤にして、世界の全ての国々とりわけイスラム諸国と近隣国との友好関係の樹立・強化を促進していきます。われわれはいかなる形のものであれ、干渉と侵略を非難します。……イスラム政府は……植民地主義、シオニズム、ファシズム、共産主義に対抗する闘争を支持します。

われわれもまた、全面軍縮、核兵器ならびに化学兵器の廃絶に向けた闘争を支持します。……

われわれは追放されたパレスチナ人の権利を支持し、イスラエルの占領地における弾圧や統治の継続を強く非難します。われわれは国連決議に基づいたカシミール問題の解決を支持し、カシミールのイスラム教徒の聖戦行動と闘争を支持します。……

われわれはイスラム国でかつ隣国であるパキスタンとイランを感謝と尊敬を込めて見ております。両国は過去14年間にわたって、われわれ500万人以上の人々に避難所の提供と物的精神的援助をさしのべてくれたほか、われわれの闘争と聖戦を政治的に支持してくれました。われわれは恒久的、隣人的な関係を固めることを望んでおります。われわれはサウジアラビアを筆頭とする、全てのイスラム国に対しても心から評価と謝意を表します。彼らは聖戦遂行中にムジャヒディンと難民に寛大な援助を行ない、国際舞台においてわれわれを断固支持してくれました。

……インド政府はロシアがアフガニスタンを侵略していた時にわれわれを支持してくれなかったという事実があるにもかかわらず、イスラム国家のアフガニスタンは、非同盟運動の一員として、また多くのイスラム兄弟がインドに住んでいることから、インドとは友好的で良好な関係になりたいと望んでおります。……われわれはインド共和国にアフガニスタンの人々との協力をさまざまな分野で拡大するよう呼びかけます。

中国は隣国としてわれわれの側に立ち、国際舞台において聖戦を支持し、不法な旧ソ連の侵略を非難しました。われわれはこの国と強く広い範囲の関係を築いていきます。

イスラム教徒で新しく独立した中央アジアの国々は、長らく共産主義の腐敗した思想のもとにありましたが、われわれの北の隣人であります。これらの国々とわれわれは長期の宗教的文化的関係を有してきました。われわれはソ連の崩壊とアフガニスタンにおけるイスラム革命の成功したこの機に、わが国が新興独立国家と関係を強化していくことを望みます。関係強化によって、双方はさまざまな分野で相互に助け合うことができます。アフガニスタンとウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタンの友好関係の強化は、商業・経済・文化関係の発展に有益な展望を切り拓きます。……

政治経済大国の米国は、闘争期間中のアフガニスタンの人々を支援してきてくれました。われわれはこの国やヨーロッパの国々、日本、極東の国々のイスラム革命に向けた真剣な支援に対して謝意を表します。

またもう一つの工業国家ロシアは、われわれに破壊と強圧的な政策を強いた旧ソ連の後継国として、われわれイスラム国家の注目する中軸に位置しております。この国と関係を改善するに当たってわれわれは、ロシアは国土再建に最大限の資金援助をするとともに戦争賠償金の支払いと戦争で破壊したものを補修しなければならないと主張する必要があると考えます。

……今日、われわれは新しいイスラム政府をつくる礎石を造っています。われわれは手を取り合いお互いが助け合って、栄光ある、イスラム的な、自由で独立した強いアフガニスタンを建設していきましょう。……イスラムは人々に政治、社会、経済、文化のあり方を決定する権利を承認しております。……

イスラム政府は人種、部族、言語などを基にした差別や特権を不当としています。……イスラム政府下においては全ての民族が十全なる政治、経済、社会、文化上の

権利を享受できます。イスラム政府は権力の退蔵や独占を拒絶します。われわれはムスリムの国でシーア派あるいはスンニー派とか、バストーンあるいはハズラ、タジック、ウズベックとかの名を語って人々を闘わせる秘密の手が横行することを許しえません。……

(出所) *FBIS=NEWS*, 1992年7月2日, 42~44ページ。

8 権力移譲に関するラバニー政権の声明

(10月19日, カブール)

(ラバニー大統領の率いる)イスラム政府指導者は指導者評議会より政治指導権を引き受けていらい、国家的な義務と責務を遂行しようと実に懸命の努力を払ってきた。また神とアフガン国家の戦士に誓って献身的、正直な態度で奮闘してきた。

聖戦指導者の決議にしたがってイスラム政府指導者の限定された任期は政治、経済、社会の分野で義務と責務を成功のうちに遂行し近く満了になるが、聖戦勢力の決議を守り賢者評議会(全国評議会)によって任命される新しい指導者に国家権力を委譲する用意ができています。

イスラム政府は、賢者評議会を召集するために聖戦勢力の代表委員会を設置したが、残念ながら同委員会はいくつかの集団の妨害に直面し、継続的な活動を弱められてきた。イスラム政府は、関係勢力の団結と正直な努力無しに時宜にない成功度の高い賢人評議会を開催することは不可能だと信じている。イスラム政府はそれゆえ、限定された期限内に賢人評議会の選んだ新指導者に権力を委譲するため、尊敬する聖戦指導者たちにベンチャーワルでの指導者評議会の決議に基づき賢人評議会を開催する努力を払うよう要請する。

イスラム政府は、聖戦勢力の賢人評議会開催についての決議に委ねられている。政府は持てる能力と力量を使って、ベンチャーワルで時間に制約されながら採択した指導者評議会の決議を実行しようと試みてきたし、また賢人評議会で選ばれかつその承認を得た指導者に権力を引き渡そうとしている。イスラム政府は、ベンチャーワル合意の課題を解決するのは理解と対話とリアリズムであるとはっきり表明する。武力や緊張に訴えるのは何らの成果を生まず、連合アフガニスタンの国民の団結を強く脅かすだけである。イスラム政府は国民の団結ならびに独立連合アフガニスタンの統合性の保障者であるとともに、あらゆる冒険主義を処置して、原則を示しながら断固として至高権を目指していく。

(出所) *FBIS=NES*, 1992年10月21日, 26ページ。

主要統計 アフガニスタン 1992年

第1表 推定戦争犠牲者合計数

(単位:1,000人)

年 齢	1979年人口			戦死者 (1,000人当り)			戦争犠牲者数		
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計
0~10	2419	2,418	4,837	31	28	30	75	68	143
11~20	1396	1,230	2,626	31	36	48	82	44	126
21~30	934	920	1,854	173	33	104	162	30	192
31~40	640	697	1,337	224	21	118	143	15	158
41~50	528	482	1,010	220	68	147	116	33	149
51~60	398	308	706	207	46	137	82	14	96
61~	398	284	682	173	70	130	69	20	89
合 計	6,713	6,339	13,052	109	35	73	729	224	953

(出所) Noor Ahamad Khalidi, "Demographic Consequence of War in Afghanistan," *Central Asian Survey*, Vol.10, No3. 1991, pp.116-125.

第2表 難民の推移 (1978~88年)

(単位:1,000人)

	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
難 民	610	1,018	1,620	2,680	3,949	4,136	4,200	4,300	4,600	5,040	5,506
年次増加		408	602	1,060	1,269	187	64	100	300	448	458
女 性		198	293	515	617	91	31	49	146	218	223
男 性		210	309	545	652	96	33	51	154	230	235

(出所) 第1表に同じ。

第3表 1,000人当りの戦争犠牲者

年 齢	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1978~87
[男]											
0~10	1.04	2.06	2.41	2.70	2.41	3.80	5.50	4.47	4.14	3.10	31.00
11~20	1.98	3.92	4.58	3.94	4.60	7.22	10.48	8.50	7.88	5.90	59.00
21~30	5.81	11.49	13.43	11.56	13.48	21.18	30.72	24.92	23.11	17.30	173.00
31~40	7.52	14.88	17.39	14.97	17.45	27.42	39.78	32.27	29.92	22.40	224.00
41~50	7.39	14.61	17.07	14.72	17.14	26.92	39.08	31.68	29.39	22.00	220.00
51~60	6.95	13.75	16.07	13.84	16.12	25.34	36.76	29.82	27.65	20.70	207.00
61~	5.81	11.49	13.43	11.56	13.48	20.28	31.82	24.72	23.11	17.30	173.00
計	3.65	7.22	8.40	7.17	8.30	12.90	18.66	14.88	13.66	10.13	104.98
[女]											
0~10	0.94	1.86	2.18	1.87	2.17	3.43	4.97	4.02	3.76	2.80	28.00
11~20	1.20	2.40	2.80	2.40	2.80	4.40	6.40	5.17	4.83	3.60	36.00
21~30	1.10	2.20	2.57	2.20	2.56	4.04	5.86	4.74	4.43	3.30	33.00
31~40	0.70	1.40	1.24	1.79	1.63	2.57	3.73	3.02	2.82	2.10	21.00
41~50	2.27	4.53	5.30	4.52	5.28	8.32	12.08	9.77	9.13	6.80	68.00
51~60	1.54	3.06	3.58	3.07	3.57	5.63	8.17	6.61	6.17	4.60	46.00
61~	2.34	4.66	5.45	4.66	5.44	8.56	12.44	9.55	9.90	7.00	70.00
計	1.18	2.35	2.71	2.39	2.73	4.30	6.23	5.01	4.72	3.49	35.13
[男女]											
0~10	0.99	1.96	2.29	1.97	2.28	3.60	5.21	4.22	3.93	2.93	29.39
11~20	1.61	3.21	3.74	3.21	3.73	5.84	8.47	6.84	6.35	4.73	47.73
21~30	3.47	6.88	8.07	6.92	8.01	12.58	18.24	14.75	13.67	10.18	102.77
31~40	3.96	7.85	8.93	7.97	8.93	13.95	20.14	16.20	14.94	11.10	113.97
41~50	4.94	9.80	11.38	9.68	11.13	17.30	24.83	19.83	18.20	13.44	140.54
51~60	4.58	9.08	10.56	8.99	10.31	16.04	23.00	18.38	16.82	12.40	130.16
61~	4.36	8.64	10.05	8.56	9.85	14.92	22.85	17.59	16.81	12.30	125.94
合 計	2.45	4.85	5.61	4.80	5.48	8.48	12.20	9.69	8.91	6.55	69.02

(出所) 第1表に同じ。

第4表 推定戦争犠牲者数 (1978~87年)

(単位:人)

年齢	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1978~87
〔男〕											
0~4	1,389	2,800	3,174	2,526	2,637	4,176	6,250	5,116	4,692	3,430	36,190
5~9	1,300	2,620	2,994	2,420	2,488	4,083	5,834	4,729	4,281	3,072	33,923
10~14	1,440	2,902	3,300	2,651	2,808	4,431	6,520	5,344	4,930	3,634	37,962
15~19	1,904	3,834	4,327	3,453	3,646	5,731	8,393	6,825	6,245	4,547	48,903
20~24	2,696	5,428	6,171	4,923	5,169	8,049	11,622	9,307	8,438	6,114	67,916
25~29	2,843	5,724	6,557	5,245	5,524	8,642	12,502	9,982	9,003	6,459	72,482
30~34	2,601	5,238	5,889	4,650	4,887	7,641	11,096	8,862	7,994	5,739	64,576
35~39	2,462	4,959	5,502	4,277	4,392	6,706	9,479	7,406	6,587	4,704	56,476
40~44	2,240	4,509	4,998	3,874	3,948	5,970	8,343	6,424	5,620	3,924	49,850
45~49	2,004	4,035	4,470	3,466	3,535	5,358	7,500	5,773	5,032	3,489	44,662
50~54	1,713	3,451	3,852	2,999	3,066	4,653	6,513	5,017	4,373	3,037	38,675
55~59	1,348	2,716	3,060	2,406	2,487	3,788	5,427	4,186	3,673	2,558	31,650
60~64	963	1,939	2,209	1,755	1,834	2,763	4,159	3,177	2,830	1,993	23,622
65~69	658	1,323	1,514	1,212	1,279	1,919	3,009	2,294	2,074	1,478	16,759
70~74	456	917	1,047	838	885	1,330	2,091	1,601	1,459	1,050	11,675
75~	653	1,315	1,444	1,083	1,044	1,589	2,543	1,979	1,803	1,282	14,735
計	26,671	53,710	60,510	47,777	49,721	76,828	111,270	88,022	79,036	56,511	650,056
〔女〕											
0~4	1,313	2,631	3,078	2,542	2,810	4,708	7,279	6,106	5,799	4,307	40,574
5~9	1,008	2,024	2,381	1,980	2,202	3,576	5,217	4,309	4,060	3,034	29,792
10~14	843	1,703	1,979	1,631	1,795	2,951	4,385	3,655	3,474	2,262	24,994
15~19	722	1,461	1,655	1,339	1,460	2,341	3,482	2,871	2,704	2,010	20,044
20~24	615	1,245	1,407	1,127	1,202	1,883	2,721	2,190	2,027	1,489	15,906
25~29	480	971	1,070	920	949	1,495	2,165	1,740	1,594	1,149	12,533
30~34	334	677	648	701	645	1,021	1,489	1,206	1,108	801	8,631
35~39	358	725	716	769	709	1,104	1,579	1,253	1,137	820	9,172
40~44	524	1,058	1,170	998	1,044	1,661	2,434	1,971	1,810	1,300	13,968
45~49	516	1,042	1,189	953	1,026	1,619	2,350	1,890	1,736	1,264	13,584
50~54	344	694	796	642	692	1,096	1,597	1,287	1,181	855	9,185
55~59	256	516	594	482	522	833	1,221	977	927	664	6,992
60~64	240	484	560	456	496	792	1,165	910	914	641	6,657
65~69	193	388	454	372	409	656	969	751	774	538	5,504
70~74	131	264	308	253	280	454	678	530	551	386	3,833
75~	183	369	433	358	396	642	959	751	775	535	5,401
計	8,060	16,253	18,437	15,524	16,637	26,794	39,688	32,396	30,572	22,408	226,769
〔男女〕											
0~4	2,703	5,431	6,252	5,068	5,447	8,884	13,529	11,222	10,491	7,737	76,764
5~9	2,308	4,644	5,375	4,400	4,790	7,660	11,051	9,038	8,341	6,106	63,714
10~14	2,284	4,605	5,279	4,282	4,603	7,346	10,905	8,999	8,404	6,250	62,956
15~19	2,625	5,295	5,982	4,792	5,105	8,072	11,875	9,696	8,949	6,557	68,948
20~24	3,311	6,673	7,578	6,050	6,372	9,932	14,343	11,497	10,464	7,603	83,822
25~29	3,323	6,695	7,627	6,165	6,473	10,137	14,667	11,723	10,598	7,607	85,015
30~34	2,935	5,916	6,537	5,351	5,522	8,661	12,575	10,068	9,102	6,540	73,207
35~39	2,821	5,684	6,218	5,047	5,102	7,810	11,058	8,659	7,725	5,524	65,648
40~44	2,763	5,567	6,168	4,872	4,992	7,630	10,777	8,395	7,430	5,224	63,817
45~49	2,520	5,076	5,659	4,419	4,562	6,976	9,850	7,663	6,768	4,753	58,246
50~54	2,058	4,145	4,648	3,641	3,759	5,749	8,110	6,304	5,555	3,892	47,860
55~59	1,605	3,232	3,654	2,888	3,009	4,620	6,648	5,164	4,600	3,222	38,641
60~64	1,203	2,423	2,769	2,210	2,330	3,555	5,323	4,087	3,744	2,634	30,279
65~69	850	1,712	1,968	1,584	1,687	2,575	3,978	3,044	2,849	2,016	22,264
70~74	586	1,181	1,355	1,091	1,165	1,784	2,768	2,131	2,010	1,436	15,508
75~	836	1,683	1,877	1,441	1,440	2,231	3,502	2,731	2,579	1,817	20,136
合計	34,731	69,963	78,946	63,300	66,358	103,622	150,958	120,418	109,608	78,919	876,825

(出所) 第1表に同じ。

第5表 1,000人当りの推定戦争犠牲者数

年齢	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1978~87
〔男〕											
0~4	1.04	2.10	2.41	2.07	2.41	3.80	5.50	4.47	4.14	3.10	30.95
5~9	1.22	2.36	2.82	2.42	2.82	4.46	6.49	5.26	4.87	3.63	36.36
10~14	1.69	3.27	3.91	3.36	3.92	6.16	8.94	7.25	6.72	5.03	50.26
15~19	2.72	5.26	6.29	5.40	6.30	9.89	14.36	11.65	10.79	8.07	80.73
20~24	4.63	8.95	10.70	9.21	10.75	16.89	24.51	19.86	18.40	13.76	137.67
25~29	6.13	11.85	14.18	12.21	14.24	22.37	32.45	26.32	24.41	18.27	182.43
30~34	7.00	13.53	16.18	13.92	16.22	25.48	36.96	29.99	27.81	20.82	207.89
35~39	7.49	14.49	17.33	14.92	17.39	27.32	39.64	31.16	29.82	22.32	222.89
40~44	7.43	14.36	17.17	14.80	17.23	27.07	39.29	31.86	29.55	22.12	220.88
45~49	7.30	14.11	16.87	14.55	16.94	26.61	38.62	31.32	29.05	21.74	217.12
50~54	7.09	13.70	16.38	14.11	16.43	25.82	37.47	30.39	28.18	21.10	210.65
55~59	6.73	13.02	15.56	13.40	15.61	24.36	35.80	28.83	26.77	20.04	200.12
60~64	6.17	11.92	14.25	12.27	14.30	33.35	26.30	24.51	18.35	183.26	
65~69	5.81	11.23	13.43	11.56	13.48	20.28	31.82	24.72	23.11	17.30	172.74
70~74	5.81	11.23	13.43	11.65	13.48	20.28	31.82	24.72	23.11	17.30	172.74
75~	5.81	11.23	13.43	11.56	13.48	20.28	31.82	24.72	23.11	17.30	172.74
計	3.72	7.18	8.56	7.31	8.46	13.15	19.04	15.19	13.95	10.35	106.90
〔女〕											
0~4	0.94	1.80	2.18	1.87	2.17	3.43	4.97	4.02	3.76	2.80	27.94
5~9	0.99	1.90	2.30	1.97	2.29	3.61	5.25	4.24	3.96	2.95	29.45
10~14	1.12	2.16	2.61	2.23	2.60	4.10	5.95	4.81	4.49	3.35	33.43
15~19	1.18	2.29	2.76	2.36	2.75	4.33	6.30	5.09	4.75	3.54	35.35
20~24	1.13	2.19	2.64	2.26	2.63	4.15	6.02	4.87	4.55	3.39	33.85
25~29	1.02	1.98	2.31	2.12	2.38	3.75	5.45	4.41	4.12	3.07	30.61
30~34	0.82	1.59	1.64	1.92	1.92	3.02	4.39	3.55	3.31	2.47	24.62
35~39	1.00	1.94	2.02	2.32	2.35	3.70	5.38	4.34	4.05	3.01	30.10
40~44	1.79	3.46	4.05	3.68	4.15	6.54	9.50	7.69	7.20	5.37	53.42
45~49	2.13	4.12	4.97	4.24	4.95	7.80	11.33	9.16	8.56	6.38	63.64
50~54	1.77	3.41	4.11	3.52	4.10	6.46	9.38	7.58	7.08	5.28	52.59
55~59	1.69	3.26	3.94	3.37	3.93	6.19	8.98	7.17	6.88	5.06	50.47
60~64	2.09	4.03	4.87	4.16	4.86	7.65	11.11	8.64	8.74	6.25	62.40
65~69	2.34	4.52	5.45	4.66	5.44	8.56	12.44	9.55	9.90	7.00	69.86
70~74	2.34	4.52	5.45	4.66	5.44	8.56	12.44	9.55	9.90	7.00	69.86
75~	2.34	4.66	5.45	4.66	5.44	8.56	12.44	9.55	9.90	7.00	70.00
計	1.19	2.20	2.73	2.41	2.76	4.34	6.28	5.05	4.76	3.52	35.33
〔男女〕											
0~4	0.99	1.90	2.29	1.96	2.28	3.59	5.20	4.21	3.92	2.93	29.28
5~9	1.11	2.13	2.56	2.20	2.55	4.02	5.84	4.72	4.38	3.26	32.76
10~14	1.42	2.75	3.29	2.82	3.28	5.14	7.44	6.01	5.58	4.16	41.88
15~19	2.00	3.87	4.64	3.97	4.60	7.21	10.44	8.43	7.80	5.80	58.77
20~24	2.94	5.68	6.83	5.86	6.80	10.68	15.49	12.52	11.58	8.61	86.98
25~29	3.56	6.88	8.25	7.14	8.23	12.92	18.73	15.14	14.02	10.45	105.32
30~34	3.77	7.28	8.62	7.64	8.67	13.58	19.66	15.84	14.64	10.89	110.60
35~39	4.11	7.93	9.26	8.16	9.19	14.37	20.76	16.69	15.39	11.42	117.29
40~44	4.65	8.98	10.64	9.14	10.39	16.08	23.00	18.33	16.82	12.45	130.48
45~49	4.88	9.42	11.22	9.54	10.97	17.06	24.52	19.62	18.00	13.26	138.49
50~54	4.71	9.10	10.84	9.22	10.57	16.43	23.57	18.83	17.25	12.72	133.24
55~59	4.56	8.81	10.52	8.96	10.29	15.93	23.12	18.34	16.92	12.44	129.90
60~64	4.44	8.57	10.25	8.76	10.11	15.46	23.20	18.07	17.02	12.47	128.34
65~69	4.35	8.40	10.04	8.58	9.93	15.04	23.06	17.76	16.96	12.42	126.53
70~74	4.37	8.43	10.08	8.60	9.95	15.04	23.04	17.72	16.92	12.40	126.55
75~	4.39	8.58	10.04	8.45	9.58	14.55	22.30	17.20	16.49	12.07	123.66
合計	2.49	4.81	5.71	4.88	5.57	8.62	12.41	9.86	9.06	6.67	70.09

(出所) 第1表に同じ。

第6表 推定人口 (1978~87年)

(単位:人)

年齢	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
〔男〕										
0~4	1,335,945	1,391,643	1,317,159	1,220,215	1,094,139	1,098,854	1,136,331	1,144,483	1,133,342	1,106,531
5~9	1,066,334	1,110,792	1,060,550	998,068	916,612	916,471	899,012	989,283	869,546	846,123
10~14	852,195	887,725	843,729	788,394	715,869	719,027	729,343	736,975	733,821	722,790
15~19	699,353	728,515	687,835	639,000	578,952	579,515	584,589	586,015	578,847	563,267
20~24	582,414	606,696	576,467	534,297	480,888	476,444	474,250	468,498	458,597	444,245
25~29	463,490	482,814	462,301	429,574	388,049	386,388	385,318	379,248	368,871	353,480
30~34	371,720	387,218	364,022	334,097	300,764	299,898	299,914	295,507	287,484	275,682
35~39	328,553	342,251	317,556	286,658	252,588	245,426	239,108	230,324	220,918	210,710
40~44	301,452	314,021	291,157	261,806	229,071	220,514	212,337	201,643	190,177	177,395
45~49	274,403	285,844	264,907	238,228	208,705	201,336	194,181	184,351	173,215	160,460
50~54	241,828	251,910	235,208	212,556	186,626	180,184	173,831	165,092	155,187	143,980
55~59	200,289	208,639	196,644	179,535	159,297	155,486	151,582	145,207	137,232	127,649
60~64	156,196	162,708	154,974	143,038	128,227	126,457	124,703	120,811	115,473	108,627
65~69	113,169	117,888	112,731	104,810	94,868	94,645	94,557	92,784	89,760	85,412
70~74	78,445	81,715	77,975	72,490	65,681	65,605	65,705	64,771	63,135	60,701
75~	112,411	117,098	107,520	93,685	77,427	78,348	79,914	80,071	78,040	74,104
計	7,178,202	7,477,478	7,070,736	6,536,454	5,877,763	5,844,548	5,844,675	5,794,100	5,663,644	5,461,154
〔女〕										
0~4	1,397,098	1,459,851	1,411,780	1,359,363	1,295,159	1,372,699	1,464,544	1,518,871	1,542,297	1,538,258
5~9	1,019,281	1,065,065	1,036,939	1,005,945	962,868	990,099	994,294	1,016,042	1,024,605	1,029,700
10~14	753,486	787,330	758,844	729,599	689,399	711,476	736,536	759,742	772,985	781,122
15~19	611,347	638,807	600,634	567,063	529,897	540,373	552,924	564,268	568,808	567,238
20~24	543,803	568,229	533,079	498,298	456,647	453,713	451,597	449,585	445,076	438,939
25~29	468,905	489,967	462,561	433,910	398,872	398,231	397,585	395,064	387,249	374,545
30~34	407,225	425,517	394,239	366,232	336,498	337,667	339,650	339,901	334,451	324,587
35~39	358,308	374,403	354,007	331,522	302,324	298,067	293,553	288,456	281,134	272,915
40~44	292,842	305,996	288,665	271,234	251,352	253,912	256,260	256,296	251,473	242,138
45~49	242,263	253,145	239,361	224,763	207,247	207,464	207,459	206,263	202,792	198,052
50~54	194,993	203,751	193,533	182,471	168,865	169,685	170,271	169,693	166,794	161,986
55~59	151,472	158,275	150,847	142,919	133,045	134,562	135,909	136,280	134,606	131,303
60~64	114,914	120,075	115,059	109,416	102,166	103,560	104,804	105,345	104,537	102,549
65~69	82,309	86,006	83,000	79,887	75,118	76,619	77,923	78,591	78,227	76,887
70~74	55,868	58,378	56,447	54,311	51,453	52,999	54,467	55,477	55,677	55,083
75~	78,108	79,086	79,441	76,777	72,881	75,017	77,105	78,676	78,309	76,386
計	6,772,222	7,073,882	6,758,736	6,433,710	6,033,790	6,176,143	6,314,880	6,418,548	6,429,019	6,371,687
〔男女〕										
0~4	2,733,042	2,851,495	2,728,939	2,579,578	2,389,298	2,471,553	2,600,875	2,663,354	2,675,639	2,644,789
5~9	2,085,615	2,175,587	2,097,489	2,004,014	1,879,479	1,906,570	1,893,306	1,914,325	1,904,151	1,875,823
10~14	1,605,680	1,675,055	1,602,573	1,517,994	1,405,268	1,430,504	1,465,879	1,496,717	1,506,806	1,503,912
15~19	1,310,705	1,367,323	1,288,470	1,206,063	1,108,849	1,119,888	1,137,513	1,150,318	1,147,655	1,130,504
20~24	1,126,217	1,174,925	1,109,546	1,032,595	937,535	930,157	925,847	918,083	903,673	883,184
25~29	932,396	972,782	924,862	863,484	786,920	784,569	782,094	774,312	756,120	728,024
30~34	778,945	812,735	758,261	700,329	637,261	637,565	639,564	635,408	621,033	600,270
35~39	686,861	716,653	671,563	618,180	554,912	543,492	532,661	518,780	502,052	483,625
40~44	594,295	620,017	579,822	533,040	480,423	474,425	468,597	457,939	441,650	419,533
45~49	516,666	538,988	504,268	462,991	415,952	408,800	401,640	390,615	376,007	358,512
50~54	436,821	455,662	428,741	395,027	355,491	349,869	344,102	334,785	321,981	305,965
55~59	351,760	366,915	347,491	322,454	292,341	290,048	287,491	281,487	271,838	258,952
60~64	271,110	282,783	270,033	252,455	230,393	230,018	229,507	226,156	220,010	211,176
65~69	195,479	203,894	196,031	184,698	169,987	171,264	172,480	171,374	167,987	162,298
70~74	134,313	140,093	134,422	126,801	117,135	118,604	120,172	120,248	118,812	115,784
75~	190,519	196,184	186,961	170,462	150,308	153,366	157,019	158,747	156,349	150,490
合計	13,950,424	14,551,360	13,839,472	12,970,165	11,911,553	12,020,691	12,159,556	12,212,649	12,092,662	11,832,841

(出所) 第1表に同じ。

第7表 年令別人口構成 (1978~87年)

(%)

年 齢	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
[男]										
0~ 4	9.58	9.56	9.52	9.41	9.19	9.14	9.35	9.37	9.37	9.35
5~ 9	7.64	7.63	7.67	7.70	7.70	7.62	7.39	7.36	7.27	7.15
10~14	6.11	6.10	6.10	6.08	6.01	5.98	6.00	6.03	6.07	6.11
15~19	5.01	5.01	4.97	4.93	4.86	4.82	4.81	4.80	4.79	4.76
20~24	4.17	4.17	4.17	4.12	4.04	3.96	3.90	3.84	3.79	3.75
25~29	3.32	3.32	3.34	3.31	3.26	3.21	3.17	3.11	3.05	2.99
30~34	2.66	2.66	2.63	2.58	2.52	2.49	2.47	2.42	2.38	2.33
35~39	2.36	2.35	2.30	2.21	2.12	2.04	1.97	1.89	1.83	1.78
40~44	2.16	2.16	2.11	2.02	1.92	1.83	1.75	1.65	1.57	1.50
45~49	1.97	1.96	1.92	1.84	1.75	1.67	1.60	1.51	1.43	1.36
50~54	1.73	1.73	1.70	1.64	1.57	1.50	1.43	1.35	1.28	1.22
55~59	1.44	1.43	1.42	1.38	1.34	1.29	1.25	1.19	1.13	1.08
60~64	1.12	1.12	1.12	1.10	1.08	1.05	1.03	0.99	0.95	0.92
65~69	0.81	0.81	0.82	0.81	0.80	0.79	0.78	0.76	0.74	0.72
70~74	0.56	0.56	0.56	0.56	0.55	0.55	0.54	0.53	0.52	0.51
75~	0.81	0.80	0.78	0.72	0.65	0.65	0.66	0.66	0.65	0.63
計	51.46	51.39	51.13	50.40	49.35	48.62	48.07	47.44	46.48	46.15
[女]										
0~ 4	10.01	10.03	10.21	10.48	10.87	11.42	12.04	12.44	12.75	13.00
5~ 9	7.31	7.32	7.50	7.76	8.80	8.24	8.18	8.32	8.47	8.70
10~14	5.40	5.41	5.49	5.63	5.79	5.92	6.06	6.22	6.39	6.60
15~19	4.38	4.39	4.34	4.37	4.45	4.50	4.55	4.62	4.70	4.79
20~24	3.90	3.90	3.85	3.84	3.83	3.77	3.71	3.68	3.68	3.71
25~29	3.36	3.37	3.34	3.35	3.35	3.31	3.27	3.23	3.20	3.17
30~34	2.92	2.92	2.85	2.82	2.82	2.81	2.79	2.78	2.77	2.74
35~39	2.57	2.57	2.56	2.56	2.54	2.48	2.41	2.36	2.32	2.31
40~44	2.10	2.10	2.09	2.09	2.11	2.11	2.11	2.10	2.08	2.05
45~49	1.74	1.74	1.73	1.73	1.74	1.73	1.71	1.69	1.68	1.67
50~54	1.40	1.40	1.40	1.41	1.42	1.41	1.40	1.39	1.38	1.37
55~59	1.09	1.09	1.09	1.10	1.12	1.12	1.12	1.12	1.11	1.11
60~64	0.82	0.83	0.83	0.84	0.86	0.86	0.86	0.86	0.86	0.87
65~69	0.59	0.59	0.60	0.62	0.63	0.64	0.64	0.64	0.65	0.65
70~74	0.40	0.40	0.41	0.42	0.43	0.44	0.45	0.45	0.46	0.47
75~	0.56	0.54	0.57	0.59	0.61	0.62	0.63	0.64	0.65	0.65
計	48.54	48.61	48.87	49.60	50.65	51.58	51.93	52.56	53.16	53.85
[男女]										
0~ 4	15.59	19.60	19.73	19.89	20.06	20.56	21.39	21.81	22.13	22.35
5~ 9	14.95	14.95	15.17	15.45	15.78	15.86	15.57	15.67	15.75	15.85
10~14	11.51	11.51	11.59	11.70	11.80	11.90	12.05	12.26	12.46	12.71
15~19	9.40	9.40	9.32	9.30	9.31	9.32	9.35	9.43	9.49	9.55
20~24	8.07	8.07	8.02	7.96	7.87	7.74	7.61	7.52	7.47	7.46
25~29	6.68	6.69	6.69	6.66	6.61	6.53	6.44	6.43	6.25	6.15
30~34	5.58	5.59	5.48	5.40	5.35	5.30	5.26	5.20	5.14	5.07
35~39	4.92	4.92	4.86	4.77	4.66	4.52	4.38	4.25	4.15	4.09
40~44	4.26	4.26	4.19	4.11	4.03	3.95	3.85	3.75	3.65	3.55
45~49	3.70	3.70	3.65	3.57	3.49	3.40	3.30	3.20	3.11	3.03
50~54	3.13	3.13	3.10	3.05	2.98	2.91	2.83	2.74	2.66	2.59
55~59	2.52	2.52	2.51	2.49	2.45	2.41	2.36	2.30	2.25	2.19
60~64	1.94	1.94	1.95	1.95	1.93	1.91	1.89	1.85	1.82	1.78
65~69	1.40	1.40	1.42	1.42	1.43	1.42	1.42	1.40	1.39	1.37
70~74	0.96	0.96	0.97	0.98	0.98	0.99	0.99	0.98	0.98	0.98
75~	1.37	1.35	1.35	1.31	1.26	1.28	1.29	1.30	1.29	1.27
合 計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(出所) 第1表に同じ。